



メタバーズの ある日常

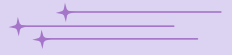
～障害者の生涯学習と余暇充実の支援～
(令和6年度 文部科学省委託事業)



認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構

(文部科学省令和6年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」委託事業)

もくじ



- はじめに p.2
- 目指す姿と実施体制 p.3

聞く・知る・体験する

- メタバース交流会 p.4
- Fujisawa メタパラダイス of Arts スピンオフ p.5
- 藤沢支援学校 メタバース体験授業 p.6

共に考える

- 連携協議会 p.7
- 共に学び、生きる共生社会コンファレンス p.8
- 振り返りと今後に向けて p.9

「ふじキュン♡」も
メタバースに登場するよ!



はじめに

メタバース。

ここ数年で耳にすることも多くなったこの言葉を聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？

インターネットで「メタバースとは」と検索すると、“インターネット上の仮想空間でアバターと呼ばれる分身を使って交流を楽しむもの”と書かれています.....

「よくはわからないけれど、VRゴーグルを使って非現実世界を体験するもの」くらいのイメージを持っている人も多いかと思います。

また、「登録や設定がめんどくさそう」「機材を揃えるのが大変そう」などの理由から利用したことがないという人も多いのではないのでしょうか。

ですが、メタバースの利用にはVRゴーグルの装着は必須ではない場合が多く、スマホで体験することもできるのです。

世の中には、日常のコミュニケーション手段としてメタバースを活用している方が多くいます。

私たち認定NPO法人藤沢市民活動推進機構（以下、推進機構）では、そんなメタバースに可能性を感じ、2024年度から障害者の生涯学習や余暇充実の支援への活用を推進しています。

そこで本冊子では、メタバースの活用に関する私たちの取り組みについて、簡単にですがご紹介いたします。

※本事業は、文部科学省令和6年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」の委託事業として実施するものです。

文部科学省サイト



https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1418341_0000_6.htm

事業公式サイト



<https://metapacafe.com/>

目指す姿と実施体制



知る、考える

- ・コミュニケーションの手段としてメタバースという選択肢を知る
- ・メタバースの活用法について、当事者・市民・有識者で共に考える



活かす

- ・メタバースで培ったコミュニケーションスキル・経験を社会で活かす
- ・現場での活用（支援学校や福祉事業所など）を促進し、効果を実証する



変化を起こす

- ・地域での障害者理解が進み、実生活での行動変容につながる
- ・障害者と健常者がそれぞれカバーし合う社会へと価値の変化が起こる

2024年度の取り組み

2025年度以降の取り組み

聞く・知る・体験する

コミュニケーションの手段としてメタバースという選択肢があることを広く知ってもらう

【より多くの人に知ってもらう】

- ・メタバース交流会
- ・Fujisawa メタパラダイス of Arts スピンオフ

【障害当事者・関係者に知ってもらう】

- ・藤沢支援学校 メタバース体験授業

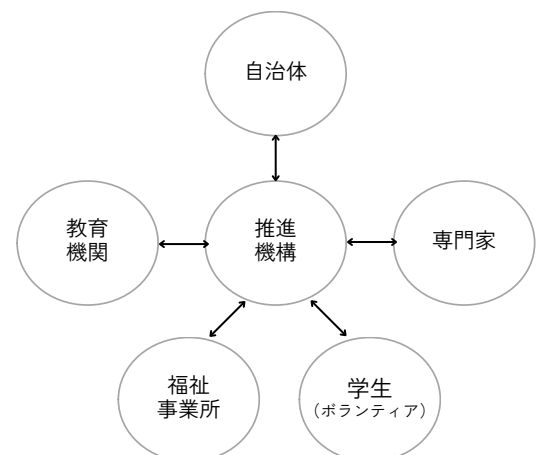
共に考える

メタバースの可能性、活用方法について当事者・市民・専門家などと考えていく

- ・連携協議会
- ・共に学び、生きる共生社会コンファレンス

主な連携先

- ・藤沢市障がい者支援課
- ・藤沢市肢体不自由児者父母の会
- ・三者連携ふじさわ学園都市むつあい協力者会議
- ・神奈川県ともいきアドバイザー
- ・神奈川県立藤沢支援学校
- ・みんなの大学校 代表／フェリス女学院大学 准教授／文部科学省アドバイザー 引地 達也氏



さまざまなメタバースプラットフォーム内で参加者同士が交流しながら、コミュニケーション方法などについて学ぶ「メタバース交流会」を計4回実施。各回ともYouTubeライブ配信も実施しています。

サッカーをしたりポートに乗ったり。
リアクションの使い方も習得！



※以降、参加人数は関係者を含む、
YouTube再生回数は2025年2月末時点

第1回 2024年8月26日(月)@ガイアタウン

参加者：17名／YouTube再生：61回

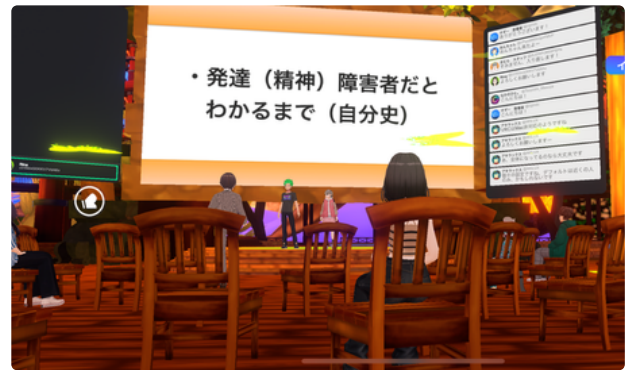
医療法人稲生会理事長で小児在宅医療に携わる土島先生が、ワールド内をアテンド。実際にさまざまな方とメタバースで交流されているとのこと、そのお話を聞きながらみんなでワールド内を探検しました！

オギーさんのお話にみんな真剣！
匿名だからこそ話せることも♪

第2回 2024年11月10日(日)@クラスター

参加者：12名／YouTube再生：48回

発達障害当事者のオギーさんが普段感じている生きづらさや悩みについて語ってくれました。また、その中でメタバースをどのように活用しているかや、メタバースを利用するメリット・デメリットについても共有してもらいました。



会話をリアルタイムで字幕化
できるサービスを体験しました！



第3回 2024年12月14日(土)@スペシャル

参加者：23名／YouTube再生：33回

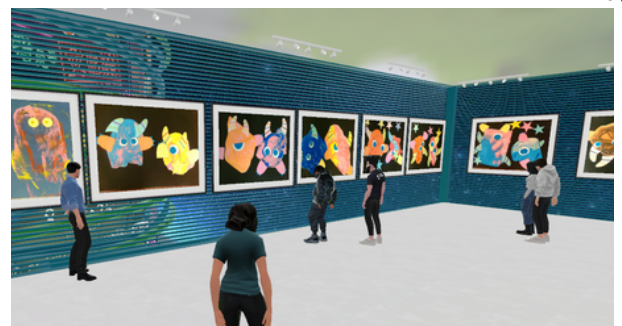
メタバース聴覚障害コミュニティ「みみトモランド」さんが登場。難聴当事者として抱えている悩みや、メタバースの可能性などについてお話していただき、短い時間でしたが、理解を深めるきっかけとなりました。

近くの人の声が大きく聞こえる
のが現実近くて面白いと好評！

第4回 2025年2月15日(土)@スペシャル

参加者：10名YouTube再生：20回

SFC-IFC代表の寺澤裕太さんが登壇。アート作品を思い思い鑑賞しながら感想を言い合ったり、メタバースの可能性や、メタバースでどんなことをしてみたいかを話し合ったりしました。



日時：2024年9月21日(土)【第1部】9:30～16:30／【第2部】19:00～20:00
 会場：秋葉台公園／メタバース会場（スペシャル）／YouTubeライブ配信

「第49回藤沢市民まつり」の開催にあわせ、メタバースと障害について広く知ってもらう機会を企画。市民まつりの会場ともなった秋葉台公園とメタバース会場（スペシャル）の2拠点で開催しました。

第1部：VRゴーグル体験（秋葉台公園） 参加者：40組

秋葉台公園では、実際にVRゴーグルを装着してメタバースを体験できるブースを出展しました。地域の学生にもボランティアとしてサポートしてもらいながら、普段、メタバースに触れる機会がほとんどないさまざまな世代の市民の方にメタバースの世界観を体験してもらいました！

普段できない動きができて楽しい！
 将来、もし足が悪くなったら
 メタバースで旅行してみたい



めちゃくちゃ楽しかった。
 今度は空が見てみたい



第2部：地域の学生によるワークショップ（メタバース） 参加者：12名 YouTube再生：46回

メタバース会場では、自閉スペクトラム症の診断を受けた地域の学生が、自身の経験を踏まえ「ニューロダイバーシティ」に関してお話してくれました。生きづらさのない社会へのシフトを目指し、どのようなことを取り組んでいるか紹介してくれました。



今回のメタバース会場には、昨年ご応募いただいた藤沢支援学校の生徒の作品や、カンボジア障害児の作品（認定NPO法人エファジャパン協力）などが展示されており、参加者が自由に鑑賞しています。

作品はこちらから
 鑑賞できます→



<https://www.spatial.io/s/FUJISAWA-Metapara-dise-of-Arts-SPHERE-6518cfa6426574584b6ed6bc?share=1445490157574986840>

日時：2025年1月15日(水) 13:00～14:00／1月22日(水) 10:00～14:00

会場：神奈川県立 藤沢支援学校

対象：小学部5年生（計8名）／高等部1年生（計16名）

神奈川県立藤沢支援学校にてメタバース体験授業を実施しました。参加してくれたのは、学校からの希望もあり小学部5年生と高等部1年生。当日は、地域の大学生・大学院生もボランティアとして駆けつけてくれ、生徒たちにメタバースの世界観を体験してもらいました！

まずは事務局からVRゴーグルの操作方をレクチャー。生徒たちはみんな興味津々！

普段は慎重な子が「やりたい」と手を挙げてくれたり、「ゲームなら得意！」と意思表示をしてくれたり♪



わあっ！急に誰かが入ってきてびっくりした〜(笑)



本当にここにあるみたい！もう一回やってみたい！



学校からのコメント

- ・子どもたちもとても楽しそうにやっていたので、VRゴーグル体験を実施してもらって良かったと思った。
- ・もう少し機材が廉価になって、気安く使用できるようになると活動の幅が広がると思った。

本事業に関わる教育機関、福祉事業所、当事者の保護者会、自治体、専門家などから構成される「連携協議会」を設置。それぞれの立場から意見やアイデアをもらい、障害者のコミュニケーションにおけるメタバースの活用について議論をしました。

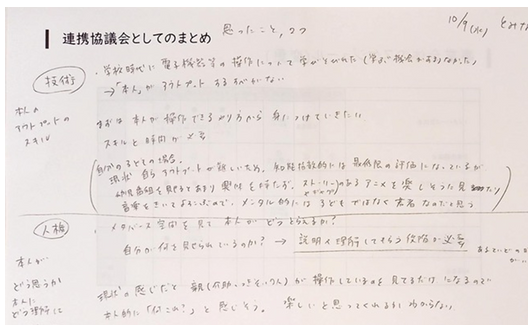
連携協議会 メンバー

(順不同・敬称略)

- ・藤沢市肢体不自由児者父母の会 富永 良子
- ・神奈川県立藤沢支援学校 岩瀬 博文
- ・藤沢市障がい者支援課 臼井 健智
- ・みんなの大学校 代表／フェリス女学院大学 准教授／文部科学省アドバイザー 引地 達也
- ・株式会社ハピリスデザイン 代表取締役 深見 勝弘
- ・慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任教授 内山 映子
- ・神奈川県ともいきアドバイザー 手塚 明美
- ・藤沢市三者連携ふじさわ学園都市むつあい協力者会議 役員／本事業連携コーディネーター 堀 千鶴

	実施日	議題
第1回	2024年7月3日(水)	キックオフ、障害者のコミュニケーション上の課題について
第2回	2024年8月2日(金)	障害者がメタバースを活用してどんなことができるかについて
第3回	2024年9月4日(水)	医療法人稲生会理事長・土島先生を招いての事例共有
第4回	2024年10月9日(水)	メタバースを活用するうえで配慮が必要な障害の特性、次年度に向けて

※場所はいずれも六会公民館／オンライン



百聞は一見にしかず。
連携協議会メンバーも
メタバースを初体験！



連携協議会メンバー からのコメント

みんなの大学校 代表・
フェリス女学院大学 准教授
文部科学省アドバイザー
引地達也氏

「交じり合う」から「一緒に考える」に広がる学び

障がい者の生涯学習支援の枠組みで行われているメタバースの活用は、巷間でソーシャルメディアの多角的な活用の広がりを見せる社会環境の中で、誰もが居場所を確保できる可能性を示し続けている。本年度の実践研究は、その新しいコミュニケーション環境への期待を、昨年度の「交わる」から「一緒に考える」に発展させ、それは「誰もが学びえる」素地を固めていくプロセスの確実な一歩を前進したものと考えている。

コミュニケーション環境を考える際の「誰もが」に、今回の主テーマである障がい者を中心に置いたとき、見える風景が変わってくるのだが、メタバースという新しいプラットフォームは「障がい」「健常」のような垣根は無くなり、そのコミュニケーションを行う際の困難な何か、という問題に焦点が当てられていくから、「障がい者」の前提はなくなるから、水平型の関係から始まるから面白い。

昨年度の事業ではメタバースによるインクルーシブなコミュニケーションができることを確認しながら、アート等の切り口で交流を行い、今回は藤沢市特別支援学校の絵画作品を展示するなどはもちろん、カンボジアの子どもたちへの支援や読書のバリアフリーなど、現在の社会課題への実践を身近に感じてもらうための展開は、確実にメタバースを使っただけの交流から一歩進み、メタバースを使って「何を話すか」「何を考えるか」「何を学ぶか」のフェーズに進んでいることを感じた。

一方で「メタバース交流会」に参加する人は初めての人も多く、楽しませよう、馴染んでもらおうとの取り組みも熱心で、障がい者の学びにメタバースを活用する医療法人稲生会（札幌市）の土島智幸理事長や学生団体がナビゲーターを務めながら、楽しく交流が出来たことで、「藤沢の」メタバースの世界が広がりを見せていくのも感じた。これも大きな成果だろう。

学びは常に期待と不安のワクワク感の中で進んでいくことを考えると、今後のメタバースの「障がい者の学び」への活用は、楽しい未知な学びにつながりそうで、本事業はまだまだ広がりを見せていくことを期待している。

日時：2025年1月26日(日)15:30～18:30

会場：藤沢市役所会議室／メタバース会場（スペシャル）／YouTubeライブ配信

登壇者：医療法人稲生会 理事長 土島智幸氏／専修大学文学部 教授 野口武悟氏／
認定NPO法人エファジャパン プログラムマネジャー 鎌倉幸子氏

文部科学省と共催で、障害者の生涯学習活動に関する研究協議などを行う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」（以下、共生コンファレンス）を開催。メタバースの活用方法をはじめ、デジタル技術も活用した「読書バリアフリー」などについて共に考えました。

藤沢市役所参加者：17名

メタバース参加者：18名

YouTube再生：71回 ※第2部も同数

第1部：読書バリアフリー（藤沢市役所、メタバース）

藤沢市役所には障害当事者やそのご家族、自治体関係者の方などにもお越しいただき、すべての人が読書を通じて恩恵を受けられる環境の整備「読書バリアフリー」について、国内外の事例を用いてディスカッションしました。また、藤沢市役所でのディスカッションの様子をメタバース会場へライブ配信。メタバース交流会で話題にのぼった「メタバース朗読会」の紹介もしています。



藤沢市役所



メタバース

第2部：メタバース体験ツアー（藤沢市役所、メタバース）

メタバース会場には、藤沢支援学校の生徒による個性豊かな作品や、カンボジアの障害児が心を込めて作った感動的なアート、みんなの大学校の学生たちのエネルギッシュな作品などを展示。アバターに扮した登壇者が作品に込められている想いを解説しながら、みんなで鑑賞しました。



藤沢市役所



メタバース



「ふじキュン♡はどこにいる？」 「地下室にあるソファに座れる？」
などのクイズに答えながら、みんなでワールド内を行ったり来たり♪
富士山&江の島の写真の前に集合して、ポーズを決めて記念撮影も！

振り返りと今後に向けて

成果

- ・「知る・聞く・体験する」「共に考える」というアプローチで1年間活動し、今までメタバースを使ったことがなかった人たちにも、**実際に体験してもらうことができた。**
- ・支援学校の授業で生徒たちにメタバースを体験してもらったことで、**コミュニケーションの手段として、また、卒業後も交流を続けられる場として、認知してもらった。**
- ・メタバース交流会や障害者のアート作品鑑賞などを通して、**障害について話し合うきっかけを提供できた。**
- ・連携協議会などで**メタバースの活用方法について関係機関と議論し、当事者の保護者会からは「本人の意見表出の場としてメタバースを活用してみたい」との意見もいただいた。**

課題

- ・支援学校や福祉事業所など、現場における具体的かつ有効な活用方法の検討
- ・メタバースを活用した生涯学習・余暇充実の支援における、より確実な効果検証

今後に向けて



知る、考える

- ・コミュニケーションの手段としてメタバースという選択肢を知る
- ・メタバースの活用法について、当事者・市民・有識者で共に考える



活かす

- ・メタバースで培ったコミュニケーションスキル・経験を社会で活かす
- ・現場での活用（支援学校や福祉事業所など）を促進し、効果を実証する



変化を起こす

- ・地域での障害者理解が進み、実生活での行動変容につながる
- ・障害者と健常者がそれぞれカバーし合う社会へと価値の変化が起こる

2024年度の取り組み

- ・支援学校からも意見が挙がった、「障害者が安心して社会生活を送るための練習の場としてメタバースを活用していく」ことを検討する。
- ・福祉事業所なども巻き込み、意見を聞きながらシミュレーションや実証実験を行う（予定）。

2025年度以降の取り組み

おわりに

本冊子にて、メタバースの可能性を少しでも感じ取ってもらえたら嬉しいです！

事業を通してメタバースを体験していただいたシニアの方からも、「メタバースで旅行に行ってみたい」「みんなとおしゃべりしたい」などの言葉をいただきましたが、今後、加齢などにより不自由が生じるようになった際にもメタバースは活用できるのではないかと考えています。

一方で、「表情が見えないことが逆に負担になる人もいる」「メタバースの世界に依存し過ぎてしまう可能性があるのではないか」という意見があることも事実です。

実際にうまくコミュニケーション手段として活用していくためには、さまざまなハードルや課題が残っていると感じています。

それをひとつひとつ関係者の方と共に考えながら、どんなやり方が一番良いのか考えていきたいなと思っています。



メタバースのある日常

プロジェクトマネージャー／五十嵐 めぐみ
構成・編集／山内 莉奈

発行／認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構

本事業に関するお問い合わせ：
認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構
TEL：080-5957-0679
MAIL：sphere@metapacafe.com

藤沢市民活動推進機構



<https://f-npocafe.or.jp/>



事業公式サイト

もっと知りたくなったら
こちらから！→



<https://metapacafe.com/>

